

令和5年度 第1回旭川市図書館協議会会議録

■日時 令和5年8月25日（金） 午後1時30分から午後3時00分

■場所 旭川市中央図書館 2階 研修室

■出席者（敬称略）

委員長 林真千子

副委員長 平泉美智子

委員 上田祐二，太田則子，木村尚美，椎名裕之，鶴野千美，中村仁

■図書館

佐藤社会教育部長，西野中央図書館長，岳中央図書館副館長，千葉事務係長，
富田奉仕係主査，岡本奉仕係主査，真鳥事務係主査

■次第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

（1）令和4年度事業報告について

（2）令和5年度事業計画について

（3）新型コロナウイルス対応による利用制限の解除について

（4）その他

4 閉 会

■提出資料

資料1 令和4年度事業報告

資料2 令和5年度事業計画

資料3 新型コロナウイルス対応による利用制限の解除について

【参考資料】

1 旭川市図書館の館数・職員数及び利用状況等の推移

2 図書館利用統計（令和3年度と令和4年度の比較）

3 旭川市図書館協議会委員名簿

4 旭川市図書館職員名簿（補職者以上）

■会議の公開・非公開 全て公開

■傍聴者 なし

■協議内容(要約)

議事に入る前に、清水委員の退任に伴う新たな委員長の選出を行い、林委員を委員長に決定した。

(1) 令和4年度事業報告について

(委員)

資料中、図書資料整備費の事業概要及び事業成果の説明で、「市民のニーズに応えるための図書館資料を充実に努めた」とあるが、助詞の使い方が誤っているのではないか？

また、図書館事業活動費の事業内容中、図書館通信の発行について、ここ2、3回とても充実した内容になっている。一方、発行当初は市民から原稿の募集を行う等の取組があったほか、発行回数も年4回のペースであった。令和4年度は年1回発行となっているが、回数が減った理由は何か？

(事務局)

助詞の使い方については適切な表現に改めます。

図書館通信については、昨年度より内容をリニューアルし、1号当たりの分量も増やしたため、発行回数が減っています。今後は年2回程度の発行を目指し、御意見のあった市民からの原稿募集などについても誌面づくりの参考とさせていただきます。

(委員)

図書館通信の各記事には「I 司書」などの記名があり、記事を書いた職員の存在を感じられ、利用者とのコミュニケーションのきっかけとなるのではと感じた。

また、図書館の統計指標が掲載されているが、前年との比較があった方がより図書館運営への理解が深まると考える。

(事務局)

貴重な御意見として、参考とさせていただきます。統計指標に関しては必要な内容については、掲載することも考えていきます。

(委員)

図書館通信の配布箇所は図書館のみか。

(事務局)

各図書館及び分室、自動車文庫等での配布を行っています。

(委員)

せっかく良い内容なのだから、市民広報誌への折り込み等、多くの市民の目に触れられる工夫を検討してほしい。

(委員)

ホームページや電子図書館などで広く公開していく方法もある。図書館に来館しない市民への広報も必要ではないか。

(委員)

市民広報誌の図書館のページに図書館通信が見られる QR コードを掲載するなどの方法もある。

(事務局)

幅広く市民に図書館を知っていただく手法として検討していきます。

(2) 令和5年度事業計画について

(委員)

昨年度の協議会で配付された資料では、令和5年度予算について予算要求額とあり、今回は当初予算額とある。表記を変更した理由は何か？

(事務局)

昨年度の時点では令和5年度予算が確定しておらず、案として予算要求額と表記しました。今回の資料では確定した予算額として当初予算額と表記しています。

(委員)

事業計画で、図書館管理費(5)分室の運営充実とあるが、具体的な内容は？

また、事業活動費(4)旭川叢書刊行はどのような内容を予定しているか？

同じく(7)図書館まつりについて、昨年度は4日間の開催であったが今年度の予定はどうか？

(事務局)

分室の運営充実については、市内10分室それぞれ地域の状況に応じた資料の充実や取組を行っていきます。

旭川叢書については、『(仮) 知ってほしいこんな旭川 珠玉の郷土史エピソード集』と題し、様々なエピソードから旭川の近現代史を紐解く内容を予定しております。

図書館まつりについては、今年度も複数日の開催を予定しております。

(委員)

図書館統計 32～33 ページには旭川叢書各巻について社会、歴史など分類を付しているが、今回の内容はどの分類になるか？また、様々な分類・分野について今後も計画的に刊行されていくという理解で良いか？

(事務局)

今回については主として歴史に分類されると考えています。今後も旭川叢書の刊行目的に沿った分類及び執筆者の選定を行いながら、計画的に刊行を進めてまいります。

(3) 新型コロナウイルス対応による利用制限の解除について

(委員)

当面持続する感染症対策として、貸出カウンター等へのアクリルパーテーション設置とあるが、医学的にも科学的にもかえって感染率を高めるというデータが出ていると思う。

利用者用の水飲み場についても使えない状況だが、市役所では紙コップを利用して水が飲めるようになっている。図書館2階給湯室を活用するなどの工夫ができないか？

また、これらは市全体の方針として行っているのか？

(事務局)

御指摘のあった感染症対策は図書館として行っています。

利用者からも様々な意見があり、感染状況の推移も見ていきながら段階的に解除することも考えております。また、頂いた御意見も参考にしながら、工夫できる部分は取り入れていくことも可能です。

(委員長)

学校ではアクリルパーテーションは撤去している。図書館としてどのような制限を継続すべきか、今後、検討していただきたい。

(4) その他

(委員)

電子書籍について令和5年度は経常費で500件の購入を予定していますが、この数字は前年度の貸出実績等を元に計上したものか？

また、旭川叢書について絶版となっているものも多く、将来的に電子書籍として公開することはできないか？

(事務局)

電子書籍購入予定数については、前年度は2月からの開始であったため、貸出実績等の予算額への反映は行えず、紙の図書とのバランスを考えながら決定しました。

また、旭川叢書をはじめ、資料の電子化・アーカイブ化についても、必要なことと認識しています。

(委員)

化学物質アレルギーを持つ方から、図書館の本はどうしても匂いに反応してしまい、利用しづらかったが、非接触型の電子書籍サービスにより読書の機会が増え、とても助かっている、もっと蔵書数を増やして欲しいとの意見があった。

(委員)

通常、図書館の説明に対し委員が質問する、という場であるが、この機会に図書館から委員に特に聞きたいことはないか？

また、ここ2・3年で今まで無かった利用者の変化について気づくことはあるか？

そのほか、資料の最終ページに「補職者以上」とあるが、辞書を調べると「補職」、「補職名」はあるが、「補職者」という言葉は見つからなかった。行政用語として良く使われる言葉なのか？一般に聞き慣れない言葉であり、市民にわかりやすい表現の方が良いと感じる。

(事務局)

ここ2・3年ではコロナ禍の中で来館を控える方が多く、特に子ども達の利用が少なく感じられました。また、自治体で「補職者」という言葉は使われますが、資料の趣旨は係長職以上を示すということなので、分かりやすい表現に替えたとしても特に問題ありません。

(委員)

中央図書館を会場に勉強会を行った際、札幌の会の代表者から図書館職員のボランティアに対する接し方がとても協力的であるとの声があった。普段の活動であまり意識していなかったが、改めて図書館の支援が充実していることに気づかされた。

(委員)

同様に研修を行った際、外部講師から専用室の存在など、図書館の支援について評価する声があった。

図書館通信については、司書の方のコラムなどとても良い内容で、今後、視覚障がい者の方々へも知らせていければと感じた。

(委員)

令和5年度の電子書籍購入予算額が適当かは、今後電子化を積極的に進めたいのか、あるいは紙書籍の補助的なものとするのか、図書館の位置付けによることであり、また、今後の利用実績等の評価を経てからのこととも思うが、読みたいコンテンツが無ければ利用の増加は期待できず、電子化を促進していく考えならば予算の増額が必要と考える。

(委員)

図書館職員が問題意識をもって、何を目的に、何を行っていくか常に取捨選択していくことで利用の活性化につながると考える。

(委員長)

最後に図書館から委員へ質問等はあるか？

(事務局)

図書館利用の活性化のために様々な取組を進めていますが、委員の方々の視点から何か

利用の活性化に資する視点やアイデアはありますか。

(委員長)

児童・生徒はデジタル情報に触れる機会も多いため、電子書籍の充実は読書習慣を形成する糸口となり得るし、派生して紙の図書へも興味・関心を持ち、図書館を利用するきっかけとなるのでは。

(委員)

図書館の窓口では職員が利用者に対し挨拶をかかさず行っており、利用する側も挨拶を返すなど、両者がともに雰囲気の良い場を今後も作っていくことが必要である。

(委員)

子どもの読書離れが進んでいる。学校での電子化が進む中で、電子書籍の利用とともに、紙の図書の良さについて知る機会があればと思う。例えば、子どもが興味をもつようなテーマについて、紙の図書を利用した調べもの講座などの企画が考えられる。

また、本に触れるきっかけとして、図書館という場を気軽に立ち寄れる居心地の良い場と認識してもらえる工夫があればと思う。

(委員)

読みたい本を探せない、知る機会がない子ども達も多い。図書館や地域文庫などの場でブックトーク等により人の手を介して豊かな本の世界を知ってもらい、それぞれ自分にあった本に出会うようになればと感じている。